



先月末、日経平均株価が取引時間中、一時、バブル後最高値を付け、ニュースになりました。1991年11月以来、約26年10カ月ぶりの高水準でした。先の総裁選では多くの点で議論が行われましたが、少なくとも経済運営の基本方針であるアベノミクスは、良い成果をあげていると言っています。

他方、今年の年頭あたりから、「アベグジット」という言葉が流れるようになって

## アベノミクスを考える —バブル後最高値とアベグジット—

すが終わる、アベノミクス。相場が崩れるという意味合いで使われています。現在の相場はアベノミクス、特に日銀のマネー供給、金融政策が作っている側面が大きいのですが、市場関係者はその動向、終焉にとても神経質になっていることが、この言葉からもわかります。この点から、いまの日本経済の課題を考えてみたいと思います。

以前からよく言われていることですが、日本経済の3要素は、国内需要(内需)、北米市場の景気動向(外需)、円安(円相場)で決まります。内需は国内の人々の消費が大きいのです。

オリンピック関連の整備は間もなく終わります。アベノミクス、特に日銀のマネー供給、金融政策ですが、これは終わるのかはわかりませんが、その副作用の大きさを指摘する声も出始め、手仕舞いにする議論が進んでいます。1990年代、バブル経済の行き過ぎを是正するため、内需を抑制するいろいろな対策、そして金融引き締めが行われました。その後、間もなく国際的な通貨危機が発生し、日本経済は深刻な経済危機に直面しました。後にその時代の対応を振り返って、加速を止めるのに急ブレーキを踏みすぎたという声もありました。ここにアベノミクスの撤退、アベグジットの難しさがあるように思います。

# 「手仕舞い」の難しさ

りました。アベグジットというのは、アベノミクスとイグジットの造語です。金融市場を中心にして広まったのですが、イグジットは出口ですので、アベノミク



名古屋市立大学大学院  
経済学研究科准教授

澤野 孝一郎

が、現在、消費は大きな伸びを見せなくなりました。このためいろいろな消費喚起が試みられるのですが、いま大きな効果を見せているのがイベント消費です。その最大なのが2020年東京オリンピックです。オリンピック開催に向けて、公共施設の新設や改修は相次いでいますし、訪日客の受け入れに向けたホテル建設や施設整備も活発です。この波及効果は消費を下支えする大きな要因で

さわのこういちろう 応用ミ  
クロ経済学。大阪大学大学院修了。博  
士(経済学)。1971年生まれ。

